

【報告】 調布市の学習支援における電通大生の活躍について

2020/09/11

学習支援コーディネーター 西牧たかね

1. はじめに

調布市の学習支援事業の第一の特徴は、学生ボランティアがマンツーマンで中学生の学習支援を行う点です。学生ボランティアが事業の要といっても過言ではありません。けれども、学生である以上、卒業して社会人になるとボランティアを続けることはできません。そこで毎年新たなボランティアを確保しなければなりません。また、教える科目の関係から、文系と理系両方の学生さんに参加してもらう必要があります。

理系の学生募集に頭を悩ませている時、調布市社会福祉協議会の地域福祉コーディネーターから、電通大の大河原先生を紹介してもらうことができました。大河原先生に学生募集への協力をお願いし、体育の授業の始めの部分で、事業の説明とボランティア募集を行う機会をいただきました。電通大の多摩川グラウンドに私がお邪魔し、体育着姿の学生さんたちの前で、経済的理由から自分の力を十分発揮できないため、将来に渡って不利を抱えるかもしれない子どもたちに力を貸して欲しいとお願いしました。

短い時間でしたが、真剣に話を聞いていただきました。その後の反応は早く、数日以内に、何人もの学生さんからの申し込みがあり（数字は後述）、今では、理系の学生ボランティアの中核を担う存在として、調布市の学習支援事業には、欠かせない存在になっています。そのことを多くの方に知っていただきたく、学生さんたちの活躍を報告にまとめました。

2. 調布市 子ども若者総合支援事業（ここあ）とは

（ここあの由来：ここからあしたへあるいていくの 「ここ」と「あ」をつないだ言葉）

ホームページ：<http://www.ccsw.or.jp/saikatsu/cocoa/>

- ・家庭の事情などにより、進学や就職をあきらめてしまうことがないように、あるいは、これまでの生活上のつまずきから、社会参加が難しくなっている状態を変えられるように、子ども・若者に対して、学習支援や居場所の提供を行うとともに、自立に向けた相談支援をおこなう事業
- ・調布市からの委託を受けて、社会福祉法人調布市社会福祉協議会が運営する
- ・3つの柱：学習支援・居場所・相談

3. 学習支援事業とは

- ・「**貧困**」※1による不利は、学校における学業達成の不利の要因となり、それが、その後の学歴や職業に影響することによって、子どもたちが将来にわたって**貧困**の状態におかれること

を、防ぐために、国が補助金を出しておこなう事業（※1 現在の子どもの相対的貧困率は13.5%）

- ・調布市も2015年秋からその事業をスタート
- ・学校の授業がわからない、小学校の学習内容が定着していない・・・などの問題を抱えつつ、経済的な理由から、塾などを使うことが困難な家庭を対象として、無料で行われる（調布市の場合、対象は児童扶養手当や就学援助を受給している世帯）

・調布市の学習支援

月・水・金の18時～20時（週1回の利用）（1回の定員は30名）

対象は中学生

学生ボランティアが1対1で学習を支援する

17時半から30分と20時から30分のミーティングを実施

1日あたり3000円の活動費を支給

4. 学習支援における学生ボランティアの役割

- ・学習の支援
- ・自分のために1人の大学生が、心をくだき、わかるまで丁寧に教えてくれるという体験を通して、自分は大切にされるに値する人間だということを実感し、自分を肯定するきっかけになる
- ・学習以外の対話を通して視野を広げることができる
- ・ロールモデルとなる

5. 電通大生の活動

① 登録人数

ボランティア全体の登録人数 78人

電通大生ボランティアの登録人数 26人

週1回ほぼ定期的に活動している電通大生の数 11人

② 電通大生が発揮している強み

- ・理数系の科目の指導に長けているので、文系の大学生と役割分担して教えてもらえる
- ・プログラミングやゲームのことなど、中学生が興味を持って聞くことができる話題について語るができる
- ・真面目で、誠実な人柄で、中学生からの信頼が厚い ※2
- ・大学が近いこともあり、ボランティアが急なお休みで不足する場合、緊急でも参加してもらえる

※2 例1：電通大生を尊敬し、高校生になっても、がんばっている報告をするために、会いに来る

例2：専門分野の話に興味を持ち、本を紹介してほしいと自分から頼む

例3：不登校で外出も少なかったが、ギターという共通の趣味をもつ学生さんと会い、それをきっかけに数学を習うために通えるようになる

6. 電通大生へのアンケートから

① このボランティアに参加するきっかけ

- ・授業で、ここあのスタッフから話を聞いたから
- ・授業受講者対象のメーリングで
- ・友人や先輩から誘われたから
- ・学習支援のボランティアをしたいと思い、探した

② 参加した動機

- ・困っている子どもたちの力になりたいから
- ・(参加している人の)話を聞き、楽しそうだったから
- ・ボランティアに興味があったから
- ・子どもに勉強を教えるのが好きだったから
- ・ボランティアをしたかったから
- ・自分の将来の就職を見据えて、様々な経験を積みたかったから
- ・人にもものを教えるという体験に興味があったから
- ・自分自身中学生の頃に悩むことが多かったので、悩みをもつ子の力になりたいかったから
- ・何かを知ることの楽しさを伝えてみたかったから
- ・様々な背景をもつ子と接することで自分もまた新しい知見が得られると思ったから
- ・教職科目を履修していて、実際の中学生がどんなところに、つまづいているか、その生徒をどのように教えたらいいかなどを知りたかったから

③ 学習支援に参加した感想

- ・とても居心地がよいと感じた
- ・色々な子に出会えてよかった
- ・教えるのが楽しい
- ・中学生の学習における様々な状況や、その他家庭環境など、学習支援に参加していなかったら、ニュースなどで知っていても、実際に身近で感じることはできなかったもので、とてもいい経験になった
- ・中学生相手にきちんと教えられるか不安だったが、今ではそうでもないと感じている
- ・時折ある中学生との雑談で、自分が知らない知識を得られることが面白いと思う
- ・困っている子を少しでも助けられてうれしい
- ・職員の方や学生の方との意見交換が活発で、活動に常に変化があり面白い
- ・一見、塾と近いものに見えたが、塾との違いとしてただ勉強を教える場ではないので、課題が多種多様である。難しいこともあるが、とてもやりがいがある

- ・子どもに勉強を教えていく中で、教員になりたいという思いが強くなり、3年から教職過程を取り始めた。そのため留年することになったが後悔はない。
- ・教員になるにあたって、色々な家庭事情を抱えた生徒に会えるので、ためになることを学ぶことができる。
- ・多くの子どもたちが、想像以上にちゃんと話を聞いてくれて、勉強に取り組んでくれた

④ 学数支援に参加したことによって自分に何か影響や変化があったか、あったらそれは何か

- ・自分自身を見直すことができた
- ・自分の知らない社会のことを知ることができて成長できた
- ・他人との会話に慣れることができた
- ・色々な大学の学生とつながることができるので、情報共有の幅が広がった
- ・人とコミュニケーションを取るのが楽しくなった
- ・初対面の人相手でも気後れすることなく話せるようになった
- ・心身状態の改善（コロナ禍におけるストレス発散）
- ・過去の自分の学習環境の良さを知り、学習支援に参加する前より少しだけ勉学に励むようになった
- ・自分の考えに多様性が生まれた
- ・貧困問題について多くの知識が身につき、またそれについて考えることが増えた
- ・教育の重要性を改めて認識するようになった
- ・自分でも悩む人の背中を後押しすることができるのだと感じ、自分もより前向きに活動するようになった
- ・人に何かを伝える力が身についた